

〈原著論文〉

看護師における専門職的自律性の概念構成に関する文献レビュー

A literature review of the conceptualization of professional autonomy in nurses

長田恵子¹ 末永由理² 廣島麻揚²

1 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻 看護学領域

2 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科

Keiko OSADA¹, Yuri SUENAGA², Mayo HIROSHIMA²

1 Division of Nursing, Department of Healthcare, Postgraduate School of Healthcare,
Postgraduate School, Tokyo Healthcare University

2 Postgraduate School of Healthcare, Postgraduate School, Tokyo Healthcare University

要旨：目的：看護師の専門職的自律性とプロフェッショナリズムに関する先行研究から専門職的自律性を概念分析し、概念構成を明らかにする。
方法：15 文献を分析対象に、Walker & Avant の方法を参考とした。対象文献の専門職的自律性及びプロフェッショナリズムの属性、先行要件、帰結を抽出し、各項目の意味の近似性により統合抽象化しカテゴリーを生成した。
結果：属性は【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】【専門職としての役割の遂行】【患者利益のための看護実践】、先行要件は【知識の基盤となる要因】【個人の成長への意欲】【専門職が活躍できる環境】、帰結は【患者満足】【看護実践力の向上】【組織や社会への貢献】が生成された。
結論：専門職的自律性の概念は、「独立的態度で患者利益のための看護実践に責任を持ち専門職の役割を遂行する」を特徴に、概念に先行し影響または促進する要因と自律性発揮の結果との関係から構造化された。

Abstract : Objective : To conduct a conceptual analysis of professional autonomy based on previous research on nurses' professional autonomy and professionalism and clarify its conceptual structure.

Method : 15 articles were analyzed, with Walker and Avant's method as a reference. Attributes, antecedents, and consequences of professional autonomy and professionalism were extracted from the target articles, and categories were generated by integrating and abstracting them based on the similarity of meaning for each item.

Results : The following categories were generated for attributes: [Independent attitude and behavior as a nurse based on evidence and one's own ethical values], [Fulfilling professional roles], and [Nursing practice for the benefit of patients]; the antecedents: [Knowledge-based factors], [Motivation for personal growth], and [An environment where professionals can thrive]; and the consequences: [Patient satisfaction], [Improvement of nursing practice], and [Contribution to the organization and society].

Conclusion : The concept of professional autonomy is characterized by "taking responsibility for nursing practice in the interest of patients with an independent attitude and fulfilling professional roles," and was structured based on the relationship between factors that precede, influence, or promote the concept and the results of

exercising autonomy.

キーワード：看護師、専門職的自律性、プロフェッショナリズム、役割、責任

Keywords：Nurse, Professional autonomy, Professionalism, Role, Responsibility

I. 緒言

少子高齢化の急速な進展に伴う社会の変化や医療提供の変化において、すべての看護師に専門職業人として能力を発揮し続けることが求められている¹⁾。しかし、日本の看護師は、専門職としての学問体系の確立の不十分さや、職務における完全な自律性の容認のされにくさなどから、半専門職 (semi-profession) であるとの指摘がある²⁾。時井 (2002, 2005) は、専門職の持つ自律性こそが専門職の根本的特質的要素であり、従来専門職の特徴的要素として語られてきた、体系化・理論化された知識の占有、あるいは愛他的・公共的責任に基づく行動は、自律性獲得のために動員させる要素であり、自律性を社会的に承認させるための必要条件であるが、十分条件ではないと述べている³⁾。そして、現代の保健医療システムは、患者 (顧客) を内包し、様々な専門職種が混在する動的組織であることから、専門職には職業的自律性と独自の価値観を持ち、自分たちの職業のみならず、社会の中での役割認識と職務遂行の観点に立ち、公正で責任ある保健医療システムの実現のために主体としての連携をはかる必要性を示した³⁾。これは、看護師においても職業的自律性の確立と行使する方向性への重要な示唆と考える。さらに、専門分化や医療技術の発達、医療供給システムの変化とともに、医療ミスの発生や医師としての責務遂行の危機が生じるなどの経緯から、医療専門職養成において内在的問題を解決するためにプロフェッショナリズムが追及されるようになった⁴⁾。プロフェッショナリズムとは、仕事役割を遂行するために必要な志向であり、医療専門職に涵養されるべき、看護師も含めた医療職におけるプロフェッショナリズムが構築されている⁴⁾。この医療プロフェッショナリズム概念には、自律性が含まれ、専門職としての学習と自律がもたらす責任を引き受けるとある⁴⁾。海外において看護師のプロフェッショナリズムの概念分析がなされ、自律性は看護師のプロフェッショナリズムの前提要件であることが明らかになっている⁵⁾。このように、現代の保健医療システムにおける医療専門職の役割、プロフェッショナリズムにおいても専門職の職

業的自律性が関与していることが明らかである。

では、保健医療システムの中で日本の看護における専門職の自律性はどのようなものであるのか、先行研究においては、看護師が完全専門職と認められたとしても、日本の現状における看護師の専門性と自律性の確立は職業についてから育成されるため依然課題とある⁶⁾。この背景には、日本の保守的な文化や環境的制約の影響が看護師の自律性を制限しているとあり^{6) 7)}、看護師自身が専門職であろうとするかが重要で⁸⁾、看護師が自律的に行動できるためには看護師自身の態度として自律的に行動しようと認知しているかであると指摘されている⁹⁾。Munding (1980) は、看護師が自律性を行使する上で、特に病院で看護師が他の治療者と異なる専門的治療を実践し、またはそのサービスについて明確に説明することは看護の責任であり、役割の基盤であると述べた¹⁰⁾。このことは、先の保健医療システムにおけるサービス提供側の役割に合致していると考えられる。しかし、看護師がその役割を実行できず、かつ専門的サービスが何であるか看護師自身が確信を持たず匿名性を好むといった、看護師の責任を果たす役割の認知が課題との言及があり⁹⁾、日本においてはこの指摘から40年を経た現在においても看護師の役割の認知についてはいまだ十分ではない^{7) 8) 9)}。この他、日本の看護師の専門職的自律性に関する先行研究は地域や対象の限定があり、認知面での測定についての研究は少なく⁹⁾、背景が様々に異なる看護師の専門職的自律性に関する研究の積み重ねは不十分である⁷⁾。

日本における看護師の専門職的自律性の概念分析については、1997年-2015年の先行研究文献から分析した報告がある¹¹⁾。2016年以降においても看護師の専門職的自律性に関する日本の文献はあるが、新たに概念分析を行った文献は見当たらない。2015年には、看護師の特定行為研修制度が法律で制定され、タスクシフトの推進など看護師に求められる役割は拡大しており、専門的自律性については改めて見直す必要があると考える。さらに、看護師のプロフェッショナリズムには自律性が関連していることは明らかであり、これまでの看護師のプロフェッショナリズムに関する研

究からも、自律性がどのようにとらえられているのかを明らかにする必要があると考えた。従って、本研究では、2016年以降の看護師の専門職的自律性に関する文献及び、看護師のプロフェッショナリズムに関する文献から日本の看護師が専門職的自律性をどのようにとらえているのかを検討することとした。その際、看護師の就業場所や役割は多様化しているが、まずは日本において多くの看護師の勤務場所となっている病院での経験を通して看護師が専門職的自律性のどのような概念のもとに行動し、または専門職であろうと行動しているのかを明らかにする必要があると考えた。

II. 研究目的

看護師の専門職的自律性に関する先行研究の文献から専門職的自律性の概念分析を行い、その構成を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

定性的アプローチによる記述的研究

2. 研究方法

1) 文献の抽出

(1) 検索方法

検索エンジンは、医学中央雑誌オンライン版 Ver.5 (以下、医中誌) 及び国立情報学研究所 学術情報ナビゲータ CiNii 検索フォーム (以下、CiNii)、PubMedを使用した。

(2) 検索期間

2016年～2025年3月

(3) 文献の採用条件

医中誌とCiNiiにおいて、キーワードを「(専門職的 or 専門職的自律性) and 看護師」、「プロフェッショナリズム and 看護師」、「責任 and 看護師 and 自律性」、「役割 and 看護師 and 自律性」とし、該当した原著論文を対象とした。日本における看護師の専門職的自律性やプロフェッショナリズムに関する文献で英語論文により投稿されているものを抽出するため、PubMedを用いて、キーワードは「Professionalism and Nurses and Japan not Books and Documents」で該当した原著論文を対象とした。

また、採用された文献の引用文献の中から専門職的自律性における専門性あるいは自律性に

関して分析しているものを加えることとした。

(4) 文献の除外条件

各キーワードで抽出後において、一般病院に勤務する看護師を対象とするため、助産師、訪問看護師、療養・介護施設等の看護師、専門病院に勤務する看護師、看護教員、看護学生を主とした看護師の専門職的自律性に関する文献を除外した。また、高度実践者であるNurse Practitionerや専門資格者である認定看護師や専門看護師に関する文献も除外した。さらに、看護師の専門職的自律性に関する定義や自律性に類する記載がない文献及びその定義に関する属性や先行要件と帰結に関して読み取れない文献は除外した。

2) 分析方法

Walker & Avantの分析方法を参考にした¹²⁾。当分析方法による概念分析は、定義の真の本質から構成物の妥当性を高め厳密な操作的定義を導くため、概念の理論的基盤を正確に反映することが可能となるとされ¹²⁾、研究過程において、言葉に敏感になる必要性や、一つ一つの概念とその関連性を明確にすることに役立つとの見解がある¹³⁾。看護師の専門職的自律性の概念については長年にわたる研究があるが、いまだに概念としての合意はなく、2016年以降において概念分析がされていないなど分析が少ない点から、先行研究からの概念抽出過程において吟味を重ねて記述的に実証的に分析する必要があると考え、当分析方法を参考にすることとした。

手順としては、まず文献を精読し、看護師の専門職的自律性の定義において各文献の概念構成から概念の属性、関連因子、先行要件と帰結を項目として抽出した。属性は、その概念において、なくてはならない特徴であり、本研究では「専門職的自律性の特徴であることや自律性が発揮されていること、それらの概念にとらえられることそれらの必要条件であると考えられたこと」に関する記載部分を抽出した。先行要件は、概念(に該当する事象)が発生・出現するのに時間的に先行して存在または生起する事象で、本研究では「専門職的自律性に基づく判断や実践に影響する内容や促進要因」と読み取れる部分を抽出した。帰結は、概念とされる事象に時間的に後行して存在または生起する事象で、その概念がもたらす結果・成果となる位置づけであり、本研究では「専門職的自律性を発揮した結果・成果がもたらされたこと、自律性が成果の要因となっていること」の記載さ

れている部分から抽出した。

次に、属性、先行要件、帰結それぞれにおいて、項目ごとの意味の近似性により統合、抽象化してカテゴリーを生成した。属性、先行要件、帰結の関連を検討し、看護師の専門職的自律性の概念を定義した。分析は、大学院において看護職のキャリア教育や生涯学習、人材育成に関する教育・研究の専門家からのスーパーバイズを受けて妥当性をはかった。

3. 研究期間

2025年4月～7月

IV. 結果

1. 文献の選択

1) 抽出文献数 (図1)

全抽出文献数は、276件であった。キーワード毎に「(専門職的or専門職の自律性) and看護師and原著論文」において医中誌147件、CiNii 3件の合計150件、「プロフェッショナリズム and看護師and原著論文」において医中誌4件、CiNii 3件の合計7件、「責任and看護師and自律性and原著論文」において医中誌2件、CiNii 3件の合計5件、「役割and看護師and自律性and原著論文」において、医中誌11件、CiNii 6件の合計17件、PubMedから、キーワード「Professionalism and Nurses and Japan not Books and Documents」で97件が抽出された。

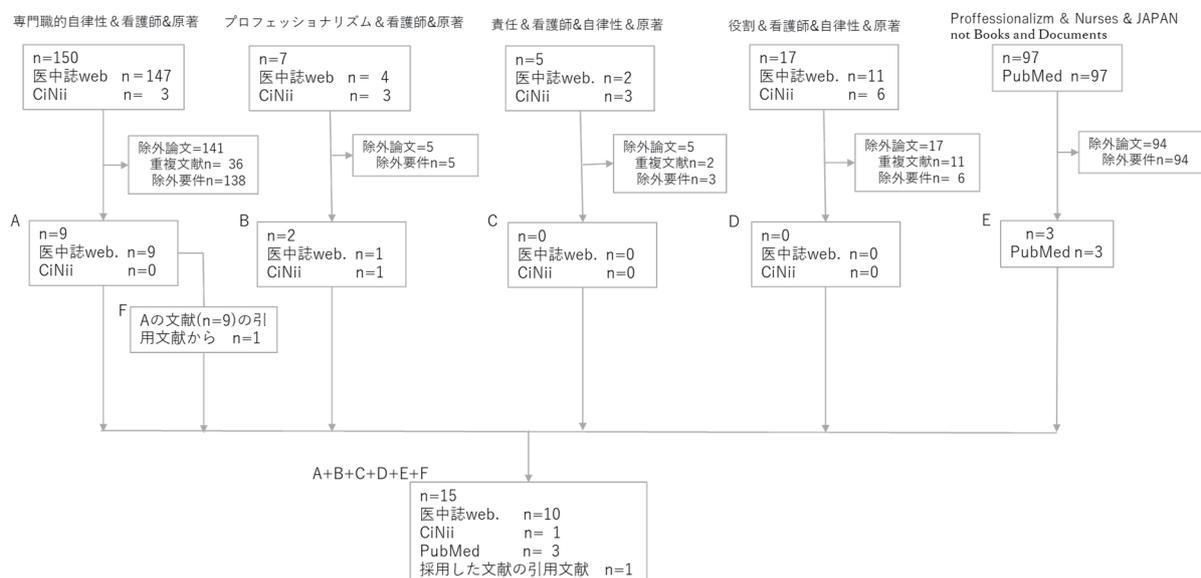
2) 採用文献数 (図1)

全採用件数は、15件 (図1、表1) であった。キーワード毎に重複と除外要件に該当した文献を除くと、「(専門職的or専門職の自律性) and看護師and原著論文」で医中誌9件、CiNii 0件の合計9件 (図1:A)、「プロフェッショナリズム and看護師and原著論文」で医中誌1件、CiNii 1件の合計2件 (図1:B)、「責任and看護師and自律性and原著論文」と「役割and看護師and自律性and原著論文」においてはいずれも医中誌0件、CiNii 0件の合計0件 (図1:C,D) であった。「Professionalism and Nurses and Japan not Books and Documents」でPubMedから3件 (図1:E) であった。検索エンジン毎には、医中誌から10件、CiNiiから1件、PubMedから3件であった。さらに、上記採用文献が引用した文献から、看護師の専門職意識を構成する概念を社会学の立場から検討した文献 (原著) 1件を分析の対象とした (図1:F)。

3) 除外要件文献数

全除外文献数は、246件であった。内訳は、キーワード毎に「(専門職的or専門職の自律性) and看護師and原著論文」で138件、「プロフェッショナリズム and看護師and原著論文」で5件、「責任and看護師and自律性and原著論文」で3件、「役割and看護師and自律性and原著論文」で6件、「Professionalism and Nurses and Japan not Books and Documents」で94件であった。

図1 文献抽出過程



看護師における専門職的自律性の概念構成に関する文献レビュー

表1 分析対象文献一覧および対象文献における専門職的自律性の属性、先行要件、帰結

文献番号 No.	分析対象文献	属性	先行要件 / 帰結
1	高田望, 朝倉京子, 杉山祥子. 看護師の専門職意識を構成する概念の検討. 東北医歯薬学雑誌 2016; 25(1): 47-57.	高度な知識体系に関する意識 公共意識 自律意識	・先行要件: 高度な知識体系の確立、自己成長、知の創造、教育水準の向上、倫理観、専門職組織への加入、職務志向、応召責任、業務の独立性、自律的な臨床判断、働き方の裁量、専門職集団が有する価値の尊重 ・帰結: 組織よりも看護という職業にコミットすることで、看護職としての専門職性が高まる雇用された組織が決めたルールよりも、職業集団に価値基準を準拠させて、自分自身の判断や行動を律する。
2	Kyoko, Asakura, Miho Satoh, Ikuo Watanabe. The Development of the Attitude Toward Professional Autonomy Scale for Nurses in Japan. Sage Journal International Journal of Forensic Mental Health Psychological Reports 2016; 9(3): 761-782. https://doi.org/10.1177/0033294116665178	職務関連の独立性がある 労働条件に対するコントロールができる 自律的な臨床判断を行う	・先行要件: 働く医療現場の状況、看護師が新しい看護活動や新しい医療介入を独立して開始できる、個人も組織も職業的自律性を認知している ・帰結: 専門職の発展を妨げる官僚主義システムからの解放、看護師が自分の状況をコントロールする
3	倉島智美, 常盤洋子, 國清恭子, 深澤友子, 鈴木祐子, 北爪明子, 小松由利絵. 看護師のプロフェッショナルリズムに対する認識. 群馬保健学研究 2017; 38: 35-46.	知識や技術 自律的な行動 他者からの信頼がある 職務に対する姿勢 患者に対する姿勢	・先行要件: 仕事の信念をもっていること、キャリア開発をすすめること ・帰結: 知識や技術、自律的な行動、他者からの信頼、職務に対する姿勢、患者に対する姿勢の特性が、経験と熟練を経て変化する。知識や技術、職務に対する姿勢が経験年数に伴い醸成する
4	杉山祥子, 朝倉京子. 看護師の自律的な臨床判断が磨かれるプロセス. 日本看護科学会誌. 2017; 37: 141-149.	知識や技術を獲得する動機を持つ 看護実践を省察する	・先行要件: 臨床の実践経験年数8年以上、看護師長からの評価を得られる ・帰結: 絶えず看護実践のための「枠組み」が更新される 自律的な臨床判断が磨かれるプロセスを踏む: 【知識を深める土台を築く】 【育んだ技能を活用する】 【自分以外の知識・技術を消化する】 【判断の中心を振り返る】 【知識と実践が深化する】 臨床判断が磨かれる
5	中谷愛子, 森千鶴. 看護師のコミュニケーションスキルとセルフエフィカシー、専門職的自律性との関連. 日本看護研究学会雑誌. 2018; 41(2): 171-183. doi:10.15065/jnsr.20171005004.	看護師のコミュニケーションスキルを持つ 自己効力がある	・先行要件: 職務遂行する。意思決定・行動の判断の場面を経験する。 ・帰結: 主体的な職務遂行
6	中村卓樹, 吉岡さおり, 入江多津子, がん看護に携わる一般病棟看護師の自律性とその関連要因—批判的思考・職場風土の視点から—. 京府医大看護紀要 2019; 29: 1-9.	論理的思考の自覚 証拠の重視 (根拠) ケアの質を支える看護の基盤をもつ	・先行要件: がん患者への看護実践を経験している、基礎教育終了後3年以上の臨床経験 (ベナー理論における一人前の位置づけ) を持つ、がん看護に関する学習経験がある ・帰結: 難しさに背を向けない、がん患者に向き合い寄り添いながら自律的に行動できる
7	吉賀節子. 看護師の自律性概念分析. Bulletin of Toyohashi Sozo University 2019; 23: 87-103.	意思決定 人間関係の相互作用 患者看護 感情コントロール	・先行要件: パソナリティ要因、社会的要因 ・帰結: 個人的帰結、対人関係帰結、組織的帰結において、自律性が高ければポジティブな側面として患者看護師の満足感や看護の質の保障、専門職としての価値を高める
8	小野寺美希子. 看護師のプロフェッショナルリズムとウェルビーイング. Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers 2019-09-25. DOI: 10.14943/doctoral.13715.	献身性: クライアントのウェルビーイングを図る、クライアントへコミットメントする 自律性: 自主的行動の感覚を持つ、プロフェッショナルリズムの推進、職業的アイデンティティを持っている	・先行要件: キャリアの段階、仕事経験を積む、段階的学習を積む、上司との関係が良好である ・帰結: 仕事に関連した変革や仕事に対する目標を自身で決定し行動し、クライアントの問題を見つけ出し解決するケアリング行動を促進する。仕事役割りを遂行し、目標達成しようとする動機から、ケアリング行動を促すとともに、組織の状況をよい方向に改善する
9	Naoko Ichikawa, Noriko Yamamoto-Mitani, Yukari Takai, Makoto Tanaka, Yukie Takemura. Understanding and measuring nurses' professional: Development and validation of the Nurses' Professionalism Inventory. Journal of Nursing Management 2020; 11: 28(7): 1607-1618. https://doi.org/10.1111/jonm.13116.	説明責任を担っている 自己改善を図る 専門職としての態度を持つ 看護専門職の進歩をはかる 専門職としてのメンバーシップを発揮する	・先行要件: 学習者である、自己反省している、組織において看護マネージャーの評価が奨励されている ・帰結: 継続的な専門職的成長を促進する
10	Nozomu, Takada, Kyoko, Asakura, Syoko, Sugiyama. Developing and validating the Japanese version of professional attitude scale for nurses. International Nursing Review 2021; 3: 68(1): 24-33. https://doi.org/10.1111/inr.12627.	知識: 体系的な知識の確立・自己成長・知識の創造・教育の進歩 公衆への願望を持つ: 倫理を順守する・専門家コミュニティへの参加・タスク思考である・要求を満たす責任を持つ 自律性: 仕事に関する独立性・自律的な臨床判断/労働条件の管理・自分の職業の尊重	・先行要件: 看護師自身がプロフェッショナルリズムを認識する、専門職的態度を定量的に評価する ・帰結: 看護政策の策定が促進される。看護の質、看護効率、患者の転帰の向上がはかれる 自律性: 仕事に関する独立性・自律的な臨床判断/労働条件の管理・自分の職業の尊重
11	林谷学, 升田由美子. 救命救急センターで勤務する看護師のWork Engagementに達成動機と自律性が及ぼす影響. 日本救急看護学会雑誌 2021; 23: 19-29.	熱意 自らの責任 仕事への積極性	・先行要件: 救命救急センターにおいて勤務している、患者状態の急激な変化に対応している、内発的動機付けを得ることが出来る ・帰結: 目標達成意欲による仕事遂行がはかれる、熱意により没頭する
12	冨田亮二, 細田泰子. 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性と職業アイデンティティに及ぼす影響の探索—横断的研究—. 日本医学看護学教育学会誌 2022; 30(3): 1-10.	専門的価値観 独立した判断	・先行要件: 初期キャリア段階の課題を持っている、教育的アプローチを受けることができる、学習機会を得ている、チームワークが円滑である、職場における関係性が良好である、相互に高め合う水平関係 (フィードバック) がある ・帰結: キャリア開発の初期段階の自発的行動を促し、専門職的自律性を促す。
13	室間賢介, 石橋正浩. 看護師の経験年数と専門学識が専門職的自律性に与える影響. 大阪教育大学紀要. 総合教育科学 2023.2.28; 11: 217-229. info:doi/10.32287/TDD0032515.	看護実践能力 内面的認知 対応能力自立的判断応力	・先行要件: 基礎教育課程におけるカリキュラム改定があり、思考を育てる教育がなされる。看護系大学での学習において看護学の意義を持つ。省察的学習の実践や経験の質を重視した教育がなされる。臨床看護実践の経験を持つ。豊かな経験知を重ねている。継続学習の機会がある。 ・帰結: 看護の専門職としての看護実践能力が高まる
14	大江理恵, 杉本吉恵. 救命救急センターで勤務する看護師の自律性尺度の開発. 日本クリティカルケア学会誌 2023; 19: 207-218.	患者・家族を擁護する行動 治療を推進する行動 回復に向けた患者、家族への支援	・先行要件: 個々の救急看護実践を経験している、仕事に対する肯定感を持っている、職場での自らの存在意義を感じている ・帰結: 円滑な救急医療の推進が図られる。救急患者の多様な価値の尊重が図られる。多職種間での協働を超えて、チーム医療が推進される
15	新美寿美, 金子さゆり. 特定機能病院に勤務する看護師の臨床的自律性の因子構造および個人属性による比較. 日本看護管理学会誌 2024; 28(1): 62-71.	患者の意思を尊重するための看護実践 医師との協働領域における専門職としての実践 看護の専門職としての責務遂行による充足感 看護独自の領域における専門職としての実践	・先行要件: 特定機能病院において教育体制が整備されている。クリニカルラダーレベルII (日本看護協会) 以上の教育レベルにある。インフォームドコンセントがなされている組織である。組織が、医療の高度化に伴う国の医療体制変化に対応しており、中でもチーム医療を推進する医師と看護師の関係性において望ましい方向へ変化してきている ・帰結: 患者の権利を守ることにつながる看護実践がなされる。医師と看護師の協働が図られる。次の看護実践へといった仕事に取り組み原動力を持つことができる。看護サービスを提供するにあたって臨床状況に状況判断をすることができる。

4) 分析対象文献

分析対象とする文献15件 (図1 : A+B+C+D+E+F) を表1に示す。

2. Walker & Avant分析による看護師の専門職的自律性

分析対象文献中に看護師の専門職的自律性の概念分析を行った文献は1件であった (表1 : 7)。属性、先行要件、帰結を明確に記載していた文献は概念分析を主とした文献を除くと1件であった (表1 : 4)。

1) 看護師の専門職的自律性における属性、先行要件、帰結の抽出

分析対象文献での専門職的自律性における属性、先行要件、帰結に関する記載内容は表1のとおりであった。分析の結果について、カテゴリーを【】、サブカテゴリーを『』、項目を□で示す。

(1) 看護師の専門職的自律性の属性について

(表2)

看護師の専門職的自律性の属性について、74項目を抽出し、3つのカテゴリー【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】【専門職としての役割の遂行】

表2 専門職的自律性の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	項目	文献番号
		看護実践において独自の決定を行い、コントロールする	2
		患者擁護の役割として権威に従属することなく看護実践に自己決定をもたらす行動する	7
	看護実践において根拠に基づく判断をし、自己決定する	自律的な臨床判断をしている	1,6,13,
		根拠ある看護実践能力を持つ	13
		与えられた環境下で、患者一人一人の状態に合わせ、適切なアセスメントが行え、主体的に行動する	6
		患者の状態に合わせて臨機応変にケアの方法を判断し行動する	15
		職務関連の独立性がある	2
	職務において根拠に基づく判断をし、自己決定する	自律的に行動するために自由な意思決定を行なう	3
		権威に従属しない独立した判断を行う	1,12
		証拠を重視 (根拠に) した判断を行う	6
		職務遂行中の主体的な思考過程を含む適切な判断と的確な実践である	5
		専門職集団による倫理規範を順守する	1,12
		公益を目的とする利他的・愛他的態度を持つ	1
根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動	看護専門職としての職業倫理 (規範) に基づく自己統制	職務志向 (公共的) である	1,10
		批判的思考である	6
		専門職組織に所属している	1
		クライアントへのコミットという職業アイデンティティを持っている	8
		雇用された組織ではなく、職業集団に価値基準を準拠させて判断・行動している	1
		専門的な行動の根底にある信念と態度	3,9,10
	個人の信念や価値観に基づく自己統制	実践において意思決定するための自身の信念と価値観を持っている	12,14
		感情コントロールにより理性的に己を律することができ、成熟している	7
		仕事に積極的に関与する	3,11,14
		熱意をもって仕事に臨む	3,11,14
		自分の職業を尊重し、誇りを持っている	3,10
		専門職業人としての価値観に基づいて意思決定・選択を行う	6,9
	職業人としての規範に基づく自己統制	他者からの信頼を得ている	1,3
		患者に最適なケアを提供するプロフェッショナルな態度である	3,9
		看護師自身の自律の促進を図っている	9,10
		働き方の裁量を獲得する必要性をもち続けている	1
		勤務条件のコントロール	2,10
		労働条件の管理	2,10

つづき 表2 専門職的自律性の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	項目	文献番号	
医療チームにおける主体的役割		医師の指示の内容が患者に適していないと判断すれば変更を提言する	6.15	
		医師の指示の内容が患者に適しているのかを判断し行動する	6.15	
		看護職組織体の理念を内面化し、人権尊重や患者擁護の役割を担う	7.8	
		人間関係の相互作用を図る	5.6,7	
		救急医療における治療を促進する行動をとる	14	
	自己改善と成長		他者及び自己への尊重による癒しとエンパワーメントの相互作用を図る	7
			学会の所属、院外研修の受講などにより自己研鑽している	8.9
			活用する知識・技術の選択や専門家集団への準拠などで自分自身の専門性を拡大する	8,15
			自己改善する責任において生涯学習に取り組んでいる	3.8,9
			研究に取り組むことで、実践の改善や専門性の蓄積に務めている	8.9
専門職としての役割の遂行	専門性を発展させる力	専門家コミュニティへの参加	10	
			職務に対する姿勢として仕事の効率性のために知識技術の向上を図る	3
			専門職にふさわしい長期間の訓練に基づく必要性と看護師養成課程の教育に問題意識を持っている	1
			看護上の判断や実践から職業的な価値を高めて看護の専門性を発揮すること	8.9,11
			知識の創造に務め、教育の進歩につなげている	1.6,8
	責任ある行動		知識と技術を備え、専門職育成に積極的に関与する	1.3,8,9
			専門職団体へ積極的に関与している	1
			看護の質改善の共同やスキル向上の共有の態度を持つ	6.8,9
			他者のプロフェッショナルの育成を通して職業的発展につなげている	8
			職業に対する愛着と職場への忠誠心を持ち、組織における看護を実践し発展させる	8
患者利益のための看護実践	先取りと省察的実践	社会に対して自分たちの活動を説明する	9	
			専門職として患者・社会に貢献する責任をもち職務遂行している	1.9,10
			専門職のメンバーシップをはかり医療専門家としての社会的責任をもつ	6.9,13,15
			患者に起こりえる身体負荷を洞察しケア行為を判断する	6.8,13,15
			看護実践に責任を持つ	1.3,9,11,15
	患者志向である		患者・家族に対して自分たちの活動を説明する	9.6,13
			看護実践を省察する	4.6,9,13,15
			患者に生じる変化を予測し、患者の看護に必要な情報を取捨選択する	4.6,8,13,15
			自分の経験にのみ基づいて判断せず、同僚や他職種のアセスメントも参考にして判断する	4.11
			同僚が起こした失敗を自分の判断に活かす	4
患者志向である		過去に看護した患者の病態と目の前の患者の病態とを比較し、自身の判断に活かす	4.8,11,13,15	
		患者の状態を判断する枠組みを持ち、活用し、省察し、絶えず更新している	4.11,13	
		自分の看護業務に関する判断を過信することなく、判断した内容を点検する	4.13	
		経験した事柄を省察しながら自律的な臨床判断を開発している	4.6,8,11,15	
		人間の修羅場への関与する経験をばねとする	4.6	
		看護実践においてはぐんだ技能を活用する	4.6,15	
患者志向である		患者の意向に沿う姿勢	3.6	
		生命危機の患者、家族を擁護する行動	11.14	
		患者の意思を尊重し、患者の意向に沿った選択や実現のために判断し行動する	6.9,15	
		回復に向けた患者、家族を支援する	6.11,14	
		クライアントへのコミットという職業アイデンティティを持っている	8	
	患者の苦悩や危機的状況にもクライアントのために最善を尽くしている	6.8,11		
	クライアントへのウェルビーイング獲得を支援している	6.8		

表3 専門職的自律性の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	項目	文献番号
知識の基盤となる要因	基礎教育の高等化	看護系大学卒で看護学の素養を身につけている	13
		基礎教育課程におけるカリキュラム改定が行われる	13
		基礎教育の基盤があり論理的思考を身につけている	6
		長期間の教育訓練を受けている	1,13
		高度な知識体系、学術教育での教育を受けている	9
	経験を積み経験知を得る	十分な臨床経験を積んでいる（10年以上）	3,13
		臨床の実践経験年数8年以上の経験を積む	4,9
		患者に対する視点や看護実践の責任を1～2年目で習得する	4
		経験年数11年以上程度の経験を積む	9
		看護師の効果的なコミュニケーション力を備える	5
知識・技術的能力の増加を伴う経験	自律的で高度な経験を経て専門性を追求している	8	
	ネガティブな経験への遭遇を経ることが知識や技術を獲得する動機となっている	4,6	
	クライアントへの不十分な関与など対人相互作用による負の経験をして乗り越えている	6,8	
	病気との共存と生死に関することなど人間の修羅場への関与する経験を持ち乗り越えている	6,8	
	充実した臨床経験	9	
	上司・同僚・クライアントとの相互作用によるポジティブな経験をする	8	
	同僚との協働やフィードバックを受ける	6,12	
	個人の成長への意欲	所属する専門領域においての根拠を持った実践を行う	6
		自己反省する	6,9,13
		自己成長しようとする意識を持つ	1,6,13
看護師自身が専門職意識を持っている		1	
看護師がプロフェッショナリズムを認識している		3,9	
看護師のプロフェッショナリズム獲得に看護体制が影響することが検討されている		4	
仕事に対する肯定感を持っている		14	
对患者・家族へのコミュニケーション力が高い		5,6	
難しさに背を向けない		6	
看護実践の中で論理的に思考し、判断することを積む		6,13	
高めあう人間関係	看護師が働く臨床状況は、看護師が専門職として認められている	1,2,10	
	看護師が臨床実践する上で医師の特徴に影響されることのない職場である	1,2,10	
	専門職性の高い看護実践のモデルがある	6,13	
	先輩看護師や上司からの看護師への思考・判断・実践・評価に対し支援的である	6,8,15	
	組織風土などの文化的影響を受けることのない職場である	7,8	
	所属する専門領域の実践知をチームで共有し積み上げ、支え合い、協働できる職場風土である	6,7,8	
	専門職として成長できるための研修等の支援がある	13	
	キャリア発達段階に応じた仕事経験を積むことが出来る	6,8,11,13	
	分野固有のトレーニングを行っている	9,11,13,14	
	継続教育において患者とその家族に対するコミュニケーションスキル教育を受けている	5	
専門職が活躍できる環境	教育的環境を持った病院	特定機能病院で教育環境が整っている	15
		看護実践に必要な知識を獲得しようとする準備状態にある	4
		教育的アプローチを受けることができる	11,12
		学習機会がある	12
		所属する専門領域の学習経験ができる環境を持つ	6,7,15
	教育背景、臨床経験、卒後教育などのより自律性が芽生える機会を得ている	7	
	社会の変化に柔軟な組織	法律で定められる裁量の度合いの変化に対応する組織である	1,2,10
		チーム医療推進による医師と看護師の関係性において相互作用が図れている組織である	6,15
		法的な職業的規制などが専門職種間の関係性に影響を受けることがない組織である	1,2,7,10

表4 専門職的自律性の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	項目	文献番号
	患者・家族に実質的な改善の変化をもたらす	患者の気分や身体および家族への安寧の提供	14
		患者に予測される苦痛症状や身体負荷の確実な回避	14
		患者に現存する苦痛症状や身体負荷の実質的軽減	6,14
		患者一人一人に合わせた質の高いケアの提供	6,12,14,15
患者満足	看護師と患者との相互作用	救急患者の多様な価値尊重	14
		看護実践の効果が導く看護師-患者関係深化発展の可能性	5,6,13
		ケアリング行動を促す充足による患者満足と患者看護師双方がエンパワメントされる	7
		患者の満足	7
看護実践力の向上	看護師の自律性向上に発展する	セルフエフィカシーを高める	5
		臨床判断のプロセスを踏むことで知識と実践が進化し、自律的な臨床判断が磨かれる	4
		プラトー現象を起こさない	6
		知識や技術、職務に対する姿勢は経験年数に伴い醸成する	3
		キャリアの発展	3
		主体的な職務遂行	5
		エビデンス探求のケアリング行動を促す	8
		プロフェッショナリズムの自己評価を行いプロフェッショナリズムの継続的な成長につながる	9
		体系的な知識と自律性の向上	1,2,3,4,8,9,10,13
		職業的アイデンティティの高まり	7
		継続的な専門的成長を促進する	9
		看護師のやりがいへつながる	看護師のやりがいへつながる
役割葛藤やバーンアウトが少ない	7		
ワークエンゲージメントを高める	11		
責務遂行による満足感、次の看護への原動力	15		
患者ケア達成による看護師の満足感	7		
看護師の満足感	7		
組織や社会への貢献	組織貢献につながる	チーム医療を担う	3
		組織コミットメントの高まり	7
		組織の共同効果が高まる	7,8
		組織の状況をよい方向に改善する行動を起こし、職務固有行動のケアリング行動を促進する	8
		協働を超えてチームを牽引し円滑な救急医療を推進する	14
		看護の質の保障を行う	7
専門職の発展につながる	専門職の発展につながる	看護専門職の発展	1,2,7,10
		専門職としての価値を高める	7
		看護師の専門的能力開発を促進する看護政策のエビデンスとなる	9

【患者利益のための看護実践】が生成された。

【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】の категорияは、5つのサブカテゴリーからなり、『看護実践において根拠に基づく判断をし、自己決定する』には、自律的な臨床判断を行うことや、患者擁護のために権威に従属しない判断を行うなどの6項目、『職務において根拠に基づく判断をし、自己決定する』には、職務関連の独立性や証拠重視の判断を行うことなど仕事全般にかかる5項目、『看護専門職としての職業倫理（規範）に基づく自己統制』には倫理的判断や公共を目的とする、職務志向であるなどの7項目、『個人の信念や価値観に基づく自己統制』には、専門職としての信念や価値観、個人の成熟に関する3項目、『職業人としての規範に基づく自己統制』には、自分の仕事への誇りや熱意、自律の促進など職務に対する姿勢の10項目が含まれた。

【専門職としての役割の遂行】の категорияは、4つのサブカテゴリーからなり、『医療チームにおける主体的役割』には、医療チームの中で一専門職としての役割発揮や患者も含む他者との協働等の6項目、『自己改善と成長』には、自己研鑽や生涯学習により学修を続けることや改善に結び付ける専門性の蓄積などの5項目、『専門性を発展させる力』には、看護上の判断や実践から職業的価値を高める、教育の進歩につなげる等の専門性を発展させる行動の9項目、『責任ある行動』には、看護の実践に責任を持ち、患者家族、社会への説明責任を持つなどの6項目が含まれた。

【患者利益のための看護実践】の categoriaは、2つのサブカテゴリーからなり、『先取りと省察的实践』では、自己の知識や実践力を過信せず省察から開発といった連関を循環させ、予測する看護実践に役立てるといった10項目、『患者志向である』には、対象の要求を満たす、擁護するといった7項目が含まれた。

(2) 看護師の専門職的自律性の先行要件について (表3)

看護師の専門職的自律性の先行要件について、46項目が抽出され、3つの categoria 【知識の基盤となる要因】 【個人の成長への意欲】 【専門職が活躍できる環境】 が生成された。

【知識の基盤となる要因】は、2つのサブカテゴリーからなり、『基礎教育の高等化』には、

専門職としての背景となる長期的、体系的教育において前提と捉える5項目、『経験を積み経験知を得る』には、臨床の実践において知識を得るための経験を積む4項目が含まれた。

【個人の成長への意欲】の categoriaは、2つのサブカテゴリーから成り、『知識・技術的能力の増加を伴う経験』は、うまくいかなかった経験や他者との協働に効果を得る等の8項目、『看護師の実践と学習から学ぶ意欲と態度』は、仕事に前向きに取り組み看護実践や機会を通してさらに学ぶ意欲としての10項目が含まれた。

【専門職が活躍できる環境】の categoriaは、3つのサブカテゴリーから成り、『高めあう人間関係』には、直接かかわる医師との関係やモデルの存在などの看護師が働く臨床状況などの6項目、『教育的環境を持った病院』には病院の労働環境や研修制度など10項目、『社会の変化に柔軟な組織』には社会における看護師の位置づけが影響するような事柄において、所属する病院が変化に対応することなどの3項目が含まれた。

(3) 看護師の専門職的自律性の帰結について (表4)

看護師の専門職的自律性の帰結について、34項目が抽出され、3つの categoria 【患者満足】 【看護実践力の向上】 【組織や社会への貢献】 が生成された。

【患者満足】は、2つのサブカテゴリーから成り、『患者・家族に実質的な改善の変化をもたらす』には、対象への直接的ケアの影響をもたらす看護実践等の4項目、『看護師と患者との相互作用』には、患者と看護師との相互作用の効果として患者の多様な価値が尊重される、さらなる看護実践の効果が導く看護師-患者関係の深化などの4項目が含まれた。

【看護実践力の向上】は2つのサブカテゴリーから成り、『看護師の自律性向上に発展する』には、看護の実践を通して得たことがさらにキャリアの発展や主体的な職務遂行につながるという11項目、『看護師のやりがいへつながる』には、看護師自身が仕事を通して得る職務満足や次の看護への原動力となるなどの6項目が含まれた。

【組織や社会への貢献】は、2つのサブカテゴリーから成り、『組織貢献につながる』には、看護実践の活動がチームや組織へ発展的な影

響を及ぼすこと等5項目が含まれ、『専門職の発展につながる』には、看護実践や自律的な行動が看護師という職業の専門職性の発展につながるといった4項目が含まれた。

2) 看護師の専門職的自律性の概念の構成

看護師の専門職的自律性の属性の3カテゴリー、先行要件の3カテゴリー、帰結の3カテゴリーと各カテゴリーを説明するサブカテゴリーを構成要素とし、それぞれのカテゴリーの、時間的に先行または後行する事象の関係を図式化した(図2)。この図をもとに、看護師の専門職的自律性の定義を、「独立的態度を持ち、専門職としての役割を果たし、患者利益のための看護実践を行う。」とした。

V. 考察

1. 対象文献のWalker&Avant分析における属性・先行要件・帰結の関連

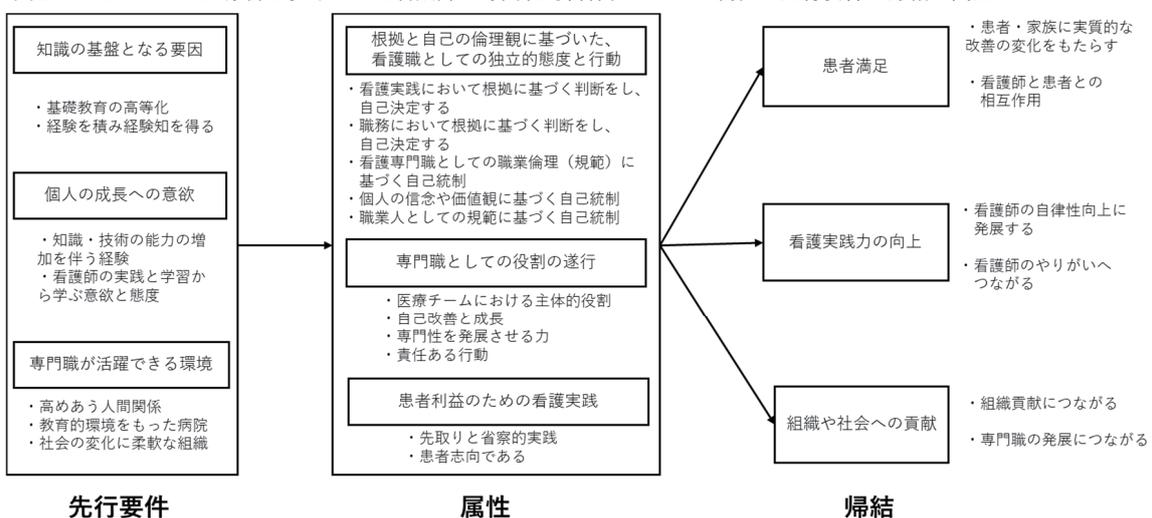
1) 看護師の専門職的自律性の属性について

属性は、【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】【専門職としての役割の遂行】【患者利益のための看護実践】から成り、看護師の専門職的自律性の概念の特徴を示すものとなった。

【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】は、看護師が主体的に考え、自己の意思をもって判断し、行動することを示すものであり、5つのサブカテゴリーからなる。『看護実践において根拠に基づく判断をし、自己決定する』は、主として患者に直接看護を行うこ

とに関して独立的に判断し行動する実践でClinical Autonomyが¹⁴⁾、『職務において根拠に基づく判断をし、自己決定する』は、仕事全般における独立的態度であり、共同チームや組織の課題、社会の課題解決における意思決定において発揮されるProfessional Autonomyが該当すると考えられる¹⁴⁾。公正で責任ある保健医療システムの実現のために専門職が主体としての連携をはかる必要性からも³⁾、このカテゴリーのClinical Autonomyに該当する[根拠ある看護実践能力をもつ](表1:13)や[患者擁護の役割として権威に従属することなく看護実践に自己決定をもたらす行動する](表1:7)、[患者の状態に合わせて臨機応変にケアの方法を判断し行動する](表1:15)などの自律性の発揮は、看護の専門分野における専門性の発揮であると考えられ、また、Professional Autonomyに該当する[職務関連の独立性がある](表1:2)や[証拠を重視(根拠に)した判断を行う](表1:6)は、保健医療システムの主体としての役割において重要な態度と考える。『看護専門職としての職業倫理(規範)に基づく自己統制』には、[専門職集団による倫理規範を順守する](表1:1,12)や[雇用された組織ではなく、職業集団に価値基準を準拠させて判断・行動している](表1:1)が生成された。これは、専門職において社会的規範があることは適切な行動様式として期待される役割であると定義されており¹⁵⁾、看護師は自己の判断や行動が何に準拠するのかといった認識の根拠を置くひとつの場所は社会的規範の専門職集団であることがあらわされたものとする。さらに、本研究では[職務志向

図2 Walker & Avant分析を参考とした看護師の専門職的自律性における属性・先行要件・帰結の関連



(公共的)である] (表1: 1,10) や[公益を目的とする利他的態度・愛他的態度を持つ] (表1: 1) など公的な職務において行動することが示された。つまり、私事ではない、何かにより左右される自己の意思が自律的判断の基準ではなく、専門職集団の倫理的規範に基づくことを含め看護師の職務を認識することが自己統制であると考えられ、その職務の役割行動に至るまでを統制するととらえている。役割行動においては、多様なコンフリクトに対峙する中で行為の主体性を確保しうるか否かは役割交渉能力、役割適応能力、自己実現能力の所持如何にかかることがあきらかである¹⁶⁾。看護師が職務を認識し役割行動をとることは、自身をコントロールすべき課題であると考えられる。また、『個人の信念や価値観に基づく自己統制』には、[専門的な行動の根底にある信念と態度] (表1: 3, 9,10) や[実践において意思決定するための自身の信念と価値観をもっている] (表1: 12,14) が含まれ、看護師自身が専門職であろうとすることや自律的であるための自己の態度の根幹となる姿勢が示されたと考える。ここには、理性的に己を律する自己の成熟が現れており (表1: 7)、信念や価値観とともにあることが、組織や社会の中で専門職としての姿勢において客観的である評価を得られるものではないかと考える。『職業人としての規範に基づく自己統制』には、熱意をもって働く、自分の仕事に誇りを持つや働き方の裁量など、職務に向き合う姿勢が含まれていた。病院や組織に勤務する看護師は労働条件、勤務条件のコントロールについては、それらを統制できないことから伝統的な専門職要件は満たせず (表: 1, 2,10)、半専門職の域を出ないとされる。しかし、Mundinger (1980)は、看護師自身がコントロールされる環境にあって、その体制の構造を問題と捉えるよりは、むしろその中に慣れ親しみ自己を隠す姿勢を指摘した。社会的な課題としてジェンダーや女性の職業が軽んじられる古い文化も、看護師の自律性を妨げていると指摘されるが^{5) 6) 7)}、現代においても「看護師はコントロール(されている、配下にある)に影響を受ける」という言葉が自律性の有無を示す用語として抽出されることにおいて、看護師自身の受け身体質からの脱却が必要と考える。日本の社会において労働条件、勤務条件のコントロール、職業範囲の規制といった構造は今も変わらない。しかし、「近年、組織のなかの専門職が増え、専門職の仕事が単独で顧客にサービスを提供できなく、他の専門職と

の相互協力のセットで顧客に到達する。伝統的な専門職論について、専門職研究における視座転換の提起がされている」と示され50年以上が経過する¹⁷⁾。組織や社会の構造、文化など何らかの規制に対し、自己がどのように行動するのかは、看護師自身が自己統制をしない限り変わらない問題であり、意思決定や行動の基準を看護師の役割として認識することが必要と考える。

【専門職としての役割の遂行】は、役割遂行の基礎となる行動として『医療チームにおける主体的役割』『自己改善と成長』『専門性を発展させる力』『責任ある行動』の4つのサブカテゴリーが生成された。『医療チームにおける主体的役割』においては、医療チームの中で[人間関係の相互作用をはかる]に (表1: 5, 6, 7)、患者を含め、職種間での互いの効果性を尊重する事により (表1: 7)、患者にとって最善の利益をもたらすこと、または不利益をもたらさない判断と行動として、医師の指示内容に適切性の判断を行う事が (表1: 6,15)、チーム医療を推進するための専門職間の協働における役割として示されたと考える。また、『責任ある行動』では、患者に起こりえる身体負荷を洞察し、ケア行為を判断するといった医療の安全におけるリスク管理や行動への責任が示されており、看護実践に責任を持つ上においても患者・家族・社会に対しどのようなことを行動しているのか説明責任を果たすことが役割であるにとらえられた。Mundinger (1980)は、医師または他の職種との共同するサービスにあっても看護師が最も有能に提供できるものを特定し、クライアントが必要とし、受け取るサービスを確立すること、医療行為の制約と優先順位の中で患者が見失われることがないことを保証することであり、医療のための共同取り組みにおいて専門職としてサービスを提供する責任であり、クライアントの最善の利益のために看護師が専門職としての役割を果たすことを示唆している⁸⁾。本研究では、複雑化する医療及び医療に関する専門職が増える中で、専門職としての看護師の役割は、『専門性を発揮させる力』をもち、自己の改善と成長を図ることを怠らず、常に備える努力、患者の利益を最優先に、そして不利益がもたらされないために『責任ある行動』により『医療チームにおける主体的な役割』を果たすことであり、Mundinger (1980)の示す看護師の専門職としての役割を裏付けるものとなった。

【患者利益のための看護実践】では、サブカテ

ゴリーとして『先取と省察的实践』が生成されたが、これは、看護実践を省察し、経験した事柄を省察しながら自律的な臨床判断を開発する(表1:4,6,8,11,15)といった新しいものへと更新する、常に磨く姿勢が示されており、中でも、他者の経験であっても自分の経験に取り入れ、振り返り、活用する貪欲さ(表1:4,11)、ネガティブな経験も次の機会に活かすこと(表1:4,6)、そして、予測して患者の状況変化に備え活用するといった(表1:4,6,8,13,15)汎用性が重要と考えられる。また自己の能力を過信せずに省察から臨床判断につなげる実態は(表1:4,13)、その慎重さが生命の尊厳に向き合う姿勢そのものであり、質的研究であるから見えたものであった。

『患者志向である』には、患者の意向を尊重し、擁護し、意向に沿った選択や実現に向ける事(表1:3,6,9,11,14,15)やクライアントへのコミットという職業的アイデンティティを持っていることが示された(表1:8)。看護の専門職としての看護実践は、対象である患者の利益を得るためであることが目的として明確であり、省察から観察力や判断力、実践力を改善し磨き、最大限の努力を払うことが専門職的自律性の属性として示されたと考える。

専門職的自律性の属性について、看護師の自律性の概念分析がなされた先行研究と本研究の共通する点は、専門職として意思決定においてその判断の準拠するところが社会的規範であることや、患者擁護における患者志向においてであった¹¹⁾。しかし、専門職的自律性の属性に含まれる内容と帰結との関係については異なっており、先行研究では、自律性の属性には患者擁護のための意思決定が中核であり、意思決定が行われた結果(帰結)において、看護師への個人的影響として役割行動が導出されている¹¹⁾。本研究では、属性には、独立的判断と職務志向や公共的であることを自己統制し、判断し行動すること、【専門職としての役割の遂行】までが含まれる。これは、自律的な実践が必要であることを認知しても、行動するかどうかは帰結に現れるのではなく、判断、態度・行動までの一連が示されて初めて専門職的自律性が発揮されていると考えられたものである。また、本研究では、【専門職としての役割の遂行】において、『医療チームにおける主体的役割』や『責任ある行動』といった人間関係の相互作用を図ることやメンバーシップ、他者への説明責任などが示されている。近年のチーム医療の推進やタスク

シフト・シェアなどの医療提供体制における変化に伴う専門職としての役割の変化が反映されていると考えられる。

2) 看護師の専門職的自律性の先行要件について

看護師の専門職的自律性の先行要件には、専門職的自律性を身につけ、向上させるために必要な【知識の基盤となる要因】【個人の成長への意欲】【専門職が活躍できる環境】のカテゴリーが生成された。【知識の基盤となる要因】については、長期的体系的教育の基盤の必要性は言うまでもないが、本研究ではさらに基礎教育の高等化において、看護学の素養や論理的思考を身につけている、高度な知識体系、学術教育での教育を受けているといった教育の内容が明らかになった。これまでも専門職的自律性に大学卒業や大学院修了の教育背景が関連する報告がされている(表1:3,6,12,13)。また、経験年数の長さが関連する報告が多い中で(表1:1,3,4,6,9,13,14,15)、本研究では【個人の成長への意欲】において、サブカテゴリー『知識・技術的能力の増加を伴う経験』が生成され、経験の具体的内容に意味があることが明らかになった(表1:4,6,8)。患者との関係性だけでなく、上司や先輩、同僚との対人相互作用においてポジティブな経験をしている(表1:8)、逆に対人相互作用による負の経験を乗り越えるといった(表1:6,8)、看護実践を通じた多様な経験を積むこと、『看護師の実践と学習から学ぶ意欲と態度』に、自己反省し(表1:6,9,13)、難しさに背を向けないなどの(表1:6)、自己の仕事への肯定感及び専門職たる認識が必要とされる示唆を得た。【専門職が活躍できる環境】には、『高めあう人間関係』に、先輩看護師や上司からの支援的態度(表1:6,8,15)、チームで支えあい協働する(表1:6,7,8)、臨床状況において医師の特徴に影響されない(表1:1,2,10)、看護師が専門職として認められているといった職場の人間関係(表1:1,2,10)、『教育的環境を持った病院』の教育的アプローチを受ける(表1:11,12)、所属する専門領域の学習経験ができる教育環境(表1:6,7,15)などの看護師が働くごく近い周辺での経験と、『社会の変化に柔軟な組織』の、法整備等に関する組織の動き(表1:1,2,10)、職業的規制などに影響を受ける組織であるかなどの大きな環境が含まれており(表1:1,2,7,10)、それらの社会はいずれも職場や社会における規範¹⁶⁾となって看護師の成長過程において、看護師

の役割の認知¹⁶⁾に影響するものになると考えられる。渡辺(1981)は、規定(規範)は、社会的相互作用の過程において学習されるため、対人的な行動の中で学習される別の準拠の場があることを示している¹⁶⁾。また、その規範は、望ましいものであったとしても、社会システム自体の構造的変化などにより、そのシステムに準拠する個人の役割の規範的内容も変化する¹⁶⁾、そこからのコンフリクトの発生による規範からの離脱もあることから¹⁶⁾、個人の判断や行動の基準が一定ではないということも考えられる。本研究でも、専門職の自律的判断が社会的規範の専門職集団に準拠する一方で、専門職的自律性の先行要件の【知識の基盤となる要因】での『経験を積み経験知を得る』までの期間において、【個人の成長への意欲】や【専門職が活躍できる環境】がどのような経験の質であるかが問われることでもありとされる。さらに、看護職の自律的な行動には状況の文脈における看護職としての役割の認知が深く関与する⁸⁾、看護師の自律性を高めるには認知的側面を促す必要性が指摘されており⁹⁾、社会の変化に組織や職場がどのような影響を受けて変化しようとするのか、旧態依然の変わらない風土であるのかは看護師の自律性の育成に影響する重要な位置づけであると考えられる。

3) 看護師の専門職的自律性の帰結について

看護師の専門職的自律性の帰結には、【患者満足】【看護実践力の向上】【組織や社会への貢献】の категория が生成されたが、【患者満足】には、現存する苦痛症状などの身体負荷の回避・軽減のみならず、予測やアセスメント効果を発揮した直接的ケアによる治療の効果が図れる、患者と看護師の相互作用により、両者がエンパワメントされると示され(表1:7)、専門職的自律性の発揮が看護師と患者の相互作用を進展させることが期待される。

【看護実践力の向上】においては、専門職的自律性の発揮が看護師の自律性向上に発展するといった、看護師個人の自律的な臨床判断が磨かれる(表1:4)、セルフエフィカシーを高める(表1:5)、主体的な職務遂行(表1:5)、職業的アイデンティティが高まる(表1:7)、看護師自身の職務満足や役割葛藤の軽減(表1:7)、次の看護への原動力となる(表1:15)、やりがいへとつながっていた。しかし、ここまでの成果となるまでには短期間で達成できることは考えにくく、自律性が向上するまでの期間において、都度

の看護実践の積み重ねやその繰り返しを丁寧に省察するという属性の実践の継続が重要と考える。また、専門職的自律性の属性には、専門職としての役割行動に医療チーム内での人間関係の相互作用を図る、専門性を発揮させる力において専門職育成に積極的に関与する、専門職としてのメンバーシップを図り医療専門家としての社会的責任を持つといった周囲を巻き込む行動が見られた。加えて、先取りと省察的实践を行い、患者志向性を持ち患者利益のために行動する専門職的自律性の発揮が、帰結において、患者との相互作用への発展だけではなく、【組織や社会への貢献】をもたらすことが考えられる。

これまでの先行研究では、看護師の自律性が高められるには経験年数を要する(表1:1, 3, 4, 6, 9, 13, 14, 15) 職場の同僚(表1:12)や上司(表1:8)からのサポートが自律性向上に関連することも明らかである。また、看護師の専門職的自律性が勤務経験の3~5年くらいに急速に上昇、6年目程に一時停滞しその後上昇するとの²⁰⁾、経験を積むだけでは順調に伸び続けるわけではないことも明らかである(表1:13)。一方で、職場による違いの影響については異なる¹⁸⁾¹⁹⁾。測定方法の偏りなど研究が十分なされておらず(表1:2)、一定の見解でないことも考えられるが、理由は明らかではない。これまで専門職的自律性に影響することやその影響の違いがなぜあるのか、どのような経験の内容が影響するのか関連する要因の報告はあるが、総合的に分析した結果は明らかではなかった。また先行研究に示されてきた看護師の専門職的自律性による実践の先において、どのような効果があるのかは明らかでなかった。本研究では、看護師の専門職的自律性の概念構成において、先行要件には、長期的な教育体系における論理的思考が育成されることに加え、看護実践の経験知には負の経験も含めて次の実践につなげる糧とした具体的内容、また社会の動きに伴う職場の環境や人間関係が影響する具体的な内容が明らかとなった。そして、属性において独立的態度を行使し、看護実践に責任を持ち専門職としての役割を遂行することが看護師の専門職的自律性の概念の特徴であること、専門職的自律性の高い看護師が行う看護実践には看護実践の省察と改善による繰り返しが図られてその実践が高められ、それらの成果が帰結となることを明らかにした。

2. 「看護師の専門職的自律性」の概念

看護師の専門職的自律性の概念は、看護師の専門職的自律性の属性・先行要件・帰結から成り、それぞれのカテゴリーの、時間的に先行または後行する事象の関係から構成した(図2)。

看護師の専門職的自律性の属性では、患者利益のための看護実践を行うために独立的態度を行使し、看護実践に責任をもって専門職としての役割を遂行することが中核を成すと考えられた。しかし、看護師の専門職的自律性の先行要件として、専門職的自律性を確立するまでの間に所属する集団の中で経験の質を獲得しており、専門職的自律性の属性にどのように影響するのかが明らかではないが、影響するとすれば帰結にもたらされる結果も変化することが考えられる。その経験の質とは、専門職としての教育体系整備や臨床での有効な経験知の積み上げ、個人が仕事へ肯定感を持ちあらゆる経験を学習として取り込んでいくこと、社会の変化に職場も個人も対応できる力と考えられ、看護師個人のみでなく、看護師が所属する組織がどのように看護師の専門職的自律性を発展させていくかが問われる課題ともなると考える。

Walker & Avantの分析において、看護師の専門職的自律性の先行要件は専門職的自律性の属性に対し時間的に先行するものであり、看護師の専門職的自律性の帰結はその属性の実践の結果であるが、看護実践において看護サービスの特徴であるサービス提供時の同時消費性からみれば、実践の結果はその場で効果を成すといった帰結も考えられれば、同時にその効果を実践として活用し、またその場で消費するといった繰り返しやその積み重ねが帰結となることも考えられる。さらに、看護実践は省察を繰り返すことから、帰結からの属性へまたは先行要件へフィードバックがされることが考えられるが、本研究ではその関連においては明らかではない。

研究の限界

本研究では、看護師の専門職的自律性の概念の構成要素となる属性・先行要件・帰結を先行文献から抽出し、その関連性から看護師の専門職的自律性の概念を定義した。しかし、構成要素である属性・先行要件・帰結の関連は検討できても、文献からの抽出にとどまる。それらが活用されて概念をなすかの検証については、今後において看護実践事例を用いた質的分析及び当概念構成からとらえた専門職的自律性の量的測定により検証していくことが課題である。

VI. 結論

1. 専門職的自律性の概念分析をキーワードに基づいて抽出した15件の文献から検討した。
2. Walker & Avantの分析方法を参考に、対象文献から看護師の専門職的自律性の属性・先行要件・帰結を抽出し、属性は【根拠と自己の倫理観に基づいた、看護職としての独立的態度と行動】【専門職としての役割の遂行】【患者利益のための看護実践】の3つのカテゴリー、先行要件は【知識の基盤となる要因】【個人の成長への意欲】【専門職が活躍できる環境】の3つのカテゴリー、帰結は、【患者満足】【看護実践力の向上】【組織や社会への貢献】の3つのカテゴリーが生成された。
3. 看護師の専門職的自律性の概念分析において、属性・先行要件・帰結から概念構成した。属性において、患者利益のための看護実践を行うために独立的態度を行使し、看護実践に責任をもって専門職としての役割を遂行することの概念の特徴が明らかとなった。先行要件は属性に時間的に先行して影響し、帰結は属性における看護実践や行動後の結果となるが、看護実践は省察を繰り返すこと、看護サービスの同時消費性による特徴から、これらは同時進行もあり、先行要件・属性・帰結における関連やカテゴリー間の関連については検証が必要である。

引用文献

- 1) 看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針 令和5年10月26日。文部科学省／厚生労働省／告示第8号。https://www.mhlw.go.jp/content/001160932.pdf。参照2025.6.30.
- 2) 天野正子. 看護婦の労働と意識：半専門職の専門職化に関する事例研究. 社会学評論, 日本社会学レビュー ; 22(3): 30-49.
- 3) 時井聡. 専門職論再考. 淑徳大学社会学学部研究叢書. 東京：株式会社学文社, 2002.5: 10-19.
- 4) 山本武志, 河口明人. 医療プロフェッショナルリズム概念の検討. 北海道大学大学院教育学研究紀要 2016.5; (126): 1-18.
- 5) Huili Cao, Yejun Song, Yanming Wu, et al. What is nursing professionalism? a concept analysis. BMC Nursing 2023 Volume22, article number 34.
- 6) 柴田恵子. 日本における看護職の専門職化—半専門的

- 職業から専門職へー. 大学アドミニストレーション研究 2016 第7号 : 45-58.
- 7) Nozomu. Takada, Kyoko. Asakura, Syoko. Sugiyama. Developing and validating the Japanese version of professional attitude scale for nurses. *International Nursing Review* 2021.3; 68(1): 24-36.
<https://doi.org/10.1111/inr.12627>.
- 8) 高田望, 朝倉京子, 杉山祥子. 看護師の専門職意識を構成する概念の検討. *東北大学医学部保健学科紀要* 2016 ; 25(1) : 47-57.
- 9) Kyoko Asakura, Miho Satoh, Ikue Watanabe. The Development of the Attitude Toward Professional Autonomy Scale for Nurses in Japan. *Sage Journal International Journal of Forensic Mental Health Psychological Reports* 2016; 9(3): 761-782. DOI: 10.1177/0033294116665178.
- 10) Mary O'Neil Mundinger. *Autonomy: The Significance for Client and Nurse. Autonomy in Nursing.* Aspen Systems Corporation 1980 : 1-17.
- 11) 古賀節子. 看護師の自律性概念分析. *豊橋創造大学紀要* 2019.3 ; (23) : 87-103.
- 12) Walker, L. O., Avant, K. C. (2005) /中木高夫, 川崎修一 訳. *看護における理論構築の方法.* 東京:医学書院, 2008.
- 13) 江本リナ, 川名るり. 研究活動に不可欠となる基盤—看護における理論構築の方法 フォーセット看護理論の分析と評価の活用. *看護研究* 2009.8 ; 42(4) : 293-296.
- 14) 古地順子. 看護職の自律性概念の探求 (第一報) 英語の文献から. *日本倫理学会誌* 2015.3 ; 7(1) : 26-35.
- 15) 我妻洋. *社会心理学入門 (下).* 講談社学術文庫. 東京: 株式会社講談社, 1972.11: 168-281.
- 16) 渡辺秀樹, 個人・社会・役割—役割概念の統合をめざして—. *思想.* 東京: 岩波書店, 1981. 686: 98-121.
- 17) 竹内洋. 専門職の社会学—専門職の概念—. *ソシオロジ* 1971; 16(3): 45-66. https://doi.org/10.14959/soshioroji.16.3_45.
- 18) 土門康子. 看護婦の専門職的自律性と仕事上の人間関係との関連. *聖路加看護学会誌* 1997; 1(1): 45-51.
- 19) 今堀陽子, 作田裕美, 坂口桃子. 臨床領域別にみた看護師の専門職的自律性の差異—行動と態度の側面から. *滋賀医科大学看護学ジャーナル* 2009 ; 7(1) : 11-16.
- 20) 菊池昭江. 看護専門職における自律性と職場環境および職務意識との関連 : 経験年数ごとに見た比較. *看護研究* 1999; 32(2): 92-103.